

## 事務局長を設置したことによる住自協運営・活動への効果等

### 1 効果

- (1) 事務局長が会計、文書、財産及び人事の管理を行う上で、これらの事務の根拠となる諸規程を順次整備している。
- (2) 単年度任期の役員は、理解が追いついていない場合があり、複数年度任期の役員は、前年度どおりで良いと考えがちである。事務局長は役員が住自協の活動を積極的に考え、行動するようになるために、組織全体の運営・活動をどのようにしたらいいのか考えている。
- (3) 事務局職員は、事務局長と積極的に意見交換をする中で、やる気を持って取り組めるようになってきている。
- (4) 住自協会長は多忙を極めていたが、事務局長の配置により組織全体の意思決定や事業執行・管理など本来の業務に専念できるようになってきている。

### 2 課題

- (1) 事業の企画立案、検討、執行の中で事務局長の立ち位置が難しい。あまり入り込み過ぎると執行部の自立性が損なわれると同時に、事務局長の後任人事にも困難度が増すことが考えられるが、現時点においては相当関わらなければ前に進まない。
- (2) 事務局長は、事務局職員の管理もあり大変である。有能な人を雇用するためにも賃金を増額すべきとの要望がある。
- (3) 事務局長、事務局次長の2人体制で対応している場合で、勤務日・時間がずれている場合は連携をどのようにするか検討が必要である。
- (4) 事務局職員の配置が整っておらず、事務局長がそれを補っているケースがある。事務局長は住自協全体の運営・活動を企画、調整する役割を担うべきであり、できるだけ早期に事務局職員体制を整備する必要がある。
- (5) 部会長など役員が担うべき部分も事務局長が負う可能性があるため、役割分担を明確にすることが必要である。大規模事業等については、実行委員会やプロジェクトチームを編成するなどの対応が必要である。